

経済 TOPICS

No. 232

(2024年6月19日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 設備投資は横這い圏内の動きとなっているものの、生産の持ち直しの動きが鈍いほか、輸出や個人消費の弱めの動きが続いていることから、全体としては回復の動きが弱まっている。消費者物価は、生鮮食品を除く食料価格の落ち着きを主因に前年比プラス幅が縮小している。他方、国内企業物価は再び上昇している。この間、自動車の認証不正問題、海外での軍事紛争の長期化、中国経済の減速など、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 生産が横這い圏内の動きを続けるなか、個人消費や設備投資が底堅く推移していることから、全体としては緩やかな回復が続いている。消費者物価は、横這い圏内の動きが続いている。

（参考）物価動向

〈日本〉 エネルギー価格が鎮静化するなか、生鮮食品を除く食料価格の落ち着きを主因に、前年比プラス幅が縮小している。この間、サービス価格の上昇圧力や価格転嫁の動きは続いている。

〈米国〉 食料やエネルギー価格が鎮静化するなか、人件費の上昇に伴うサービス価格の上昇圧力が続いていることから、全体としては横這い圏内の動きが続いている。

（注）本稿は、6月13日時点で取得可能なデータに基づき作成。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング